

“メタボ”と検査がよく分かる

専門医のはなし①



日本臨床検査専門医会
佐藤 尚武

近年の医療やヘルスケア分野での話題といえば、真っ先に上がるのがメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）ではないでしょうか。「メタボ」などと略称されることも多く、一般の方にも広く浸透しているようです。今年度と来年度はこのメタボリックシンドロームをテーマとして取り上げ、臨床検査の観点から様々な話題を提供していく予定です。

ところで、このメタボリックシンドロームはなかなか皮肉な病気です。結局のところ栄養のとり過ぎ、過食によって起こる病態なのですが、創造主というものが存在するならば、このようなことは想定していなかったのかも知れません。人類を含む動物は、有史以来ほとんどの時代を飢餓との戦いの中で過ごしてきました。ですから食物から得る余分なエネルギーは、少しでも効率よく体に蓄積できる個体が生存に適していたわけです。長い間の淘汰と適者生存の結果、現代人の多くはそのような特質を備えるようになったと考えられます。ところが人類の歴史上、突然（一部の人々だけですが）飽食の時代が出現したのです。そうなると、エネルギーを効率よく蓄積するという（これまで）生存に適していた特性が、一転してメタボリックシンドロームになりやすいというマイナス要因に変わってしまったのです。皮肉な病気というのはそういう意味です。

メタボリックシンドロームと 臨床検査

表 メタボリックシンドロームの診断基準

① 腹部肥満	② 血清トリグリセリド (中性脂肪) 値
ウエスト径	150mg/dl以上
男性 85cm以上	かつ/または
女性 90cm以上	HDLコレステロール値
	40mg/dl未満
③ 血圧	④ 空腹時血糖
収縮期血圧	
130mmHg以上	110 mg/dl以上
かつ/または	
拡張期血圧	
85mmHg以上	

さて、メタボリックシンドロームは、かなり進行するまではっきりした症状が出ないことが知られています。ですから症状以外の指標で診断し、治療しなければならない病気なのです。日本内科学会が提唱したメタボリックシンドロームの診断基準を表に示します。みな検査に関係した項目です。特に血清トリグリセリド値/HDLコレステロール値と空腹時血糖は臨床検査の中の検体検査の項目です。

ほとんど症状がないメタボリックシンドロームの診療においては、臨床検査が診断や治療の指標として大変重要視されているのです。診断基準にあるもの以外でも、メタボリックシンドロームに関連した検査、診断や治療に利用される検査は色々あります。次回以降、メタボリックシンドロームとの関係で、これら種々の検査を解説していきますので、期待してください。